

ペアレンツキャンプの皆様

前略

寒い日が続きますが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。

昨年10月に1年3か月間の支援を卒業してから、早いもので3か月半が過ぎました。

2年前の今頃、小5の終わりから五月雨登校となり、小6の6月から全く学校に行けなくなってしまった息子でしたが、辻先生のご指導を受けて親が変わることによりなんとか立ち上がり、登校を再開することができました。

中1の今、3学期に入ってから1日発熱で休みましたが、毎日登校しています。先日の祝日には同級生と朝から一日中映画やスポーツ施設で遊んできました。まだまだ波はあるのですが、布団にもぐって一日中過ごしていたころとは別人のように毎日を過ごしています。

息子は保育園、小学校と登園・登校には何の不安もなく、習い事や塾に通って忙しかったですが、友達も多くて学校行事にも積極的に参加していて順調に過ごしていると思っておりました。

一人息子に対する親の期待が大きく、また、夫婦共働きで、私（母）がフルタイムで毎日帰宅が遅いことで時間に追われ、頑張っている子供の良いところを褒めたり、ゆっくり子供の話を聞くことせず、「勉強はしたの？」「早くしなさい！」と一方的な会話になっていたと思います。

過干渉で息子に対する不足不満感が強く、メシテイだらけで受容的な態度に欠如していたと今はわかります。もっと寄り添い、話を聞いてあげれば良かったと、精一杯頑張っていた本当に息子に申し訳なく思います。

そんな親に対し、優しい性格の息子は期待に応えようと健気に一生懸命頑張っていたのだと思います。

それまでほとんど学校を休まなかった息子が、小5の秋から、頭痛、嘔吐、足の痛みなど次々と具合が悪くなり、休みがちになりました。都度病院に連れていきましたが、それが五月雨登校（この言葉も知りませんでした）であったとは全く思いもしませんでした。

中学受験を目指していたので、親としては大事な時期に学校も塾も休みがちなことになり、「ちゃんと手を洗わないから風邪ひくんじゃないの？」「休んだ分勉強取り返さないと」などと、心配するどころか更に追い詰めるような発言をしていました。今思えば体調不良は息子が無意識に発していたSOSだったのに、全く気付いてあげることができませんでした。

6年生になってからは偏頭痛、嘔吐の連続で週の半分以上休むようになり、塾もほとんど行けなくなりました。

もしや心の問題かと心配になり本人に聞いても、「友達もたくさんいるし、学校は楽しい」「塾は好き。勉強も頑張りたい」といいます。学校の先生やスクールカウンセラーにも相談しましたが、楽しそうに過ごしていて特に思い当たることがないといわれ、理由はわかりませんでした。

朝、登校しようとする¹と決まると具合が悪くなり、友達の誘いにも応じられず、それでも机に向かって勉強を始めようとして「このままじゃ、僕はダメになっちゃうから勉強するんだ！」と涙声で叫んだときに、これはもう体の病気ではない。限界なんだとやっと分かりました。母親ならもっと早く気づかなければいけませんでした。

不登校の本やビデオを買い集め、ネットでもいろいろ情報収集して、とにかく過干渉をやめて、塾を休ませて、学校も無理しなくていいよと伝えて休ませました。

するとひどかった偏頭痛も嘔吐も収まり、本人の状態は良くなりましたが、学校に行かず、ほぼ一日寝て過ごし、引きこもりのような状況となってしまいました。カウンセリングなどに行くのは嫌がるので、主人も私もどうしていいかわからず、暗闇に浮いたような例えようのない不安感で、通勤中も涙があふれました。

そんな中で水野先生の『無理して学校に行かなくていい、は本当か』を取り寄せて読んだとき「これだ！」と思いました。フリースクールとかではなく、学校に戻して友達と過ごして辛いことも乗り越えて成長して、一人で生きていける人間になってほしいと強く思いました。

すぐに主人にも本を読んでもらい、ペアレンツキャンプに相談しようと決めました。

メールをすると数日で返信をいただき、すぐに辻先生との電話相談につないでいただきました。辻先生が電話だけで息子の状況と親の問題を的確に指摘して下さい、復学支援を引き受けてくださったときは救われた思いがして涙が止まりませんでした。

父子が友達同士のような関係であったことから、父親の立場を上げるように気を付けました。母はとにかく過干渉をやめる、受容の姿勢を取るということで、父性、母性を立て直しました。

支援開始した時点で完全不登校から3週間と期間が短かったので、まずはダイレクトアプローチではなく親の対応で登校刺激を行うことにしました。冷ます対応、父母の役割分担を細かくご指導いただき、初めての家族会議のあと、初日は行けませんでした²が2日目に登校することができました。

その後も完全復活とはならず、頭痛や嘔吐で1日、また1日と休むことがありましたが、連続した不登校に戻ることはありませんでした。そして卒業式には友達と楽しそうに笑って写真に写る姿を見ることができました。あの時ペアレンツキャンプの復学支援に出会えなかったら、息子を学校に戻すことはできなかったかもしれないと思います。

結局、親が変わることだけで息子の様々な体調不良もすっかり無くなり、不登校を解消することができました。逆に考えると親が対応を間違えたことで、息子をあそこまで追い込んでしまったと思うと本当に恐ろしいことだと思います。辻先生のご指導のおかげで対応や考え方を考えることができたことは不登校解決のみならず、今後の家族関係のためにも本当に価値のあるものだったと思います。

今では休みの日昼まで寝ていても、勉強しなくても、だらしなくしていてもあまり気にならなくなりました。息子も親への警戒心が少なくなり他愛もない話や失敗談も安心して話すようになったと思います。

部活もサボってますし、時々登校が怪しいかもと不安になる朝もありますが、自分から親に頼んで通信教育を始めたり、英検に挑戦するなど成長を感じることができています。これからも辻先生の教えを忘れず悪

い癖が出てしまわないようPCMを心掛け、息子が自らの足でしっかりと自分の人生を歩んでいけるように見守ってきたいと思います。

不安だった日々、辻先生には電話、メール、面談で力強く支えていただきました。おかげで主人と協力して自信をもって対応することができました。全国を駆け回りながらも、私の些細な心配事にも丁寧に対応いただいた辻先生には本当に感謝しています。

ペアレンツキャンプの支援を必要としているご家族がたくさんいらっしゃると思います。先生方、スタッフの皆様におかれましては激務に負けずお体を大切にいただき、ペアレンツキャンプのご活動をひろげていただくことを心から願っております。

またお世話にならずに済むように、家族3人で頑張ります。

本当にありがとうございました。

敬具

2019年1月29日

